



自分が搾乳して、その牛乳が皆の口に入ることを想像すると、誇らしい気持ちになります。ここでの経験から将来は動物看護の道に進みたいと考えており、卒業後も実現に向け努力を継続していきます。(3年生、上村 美優さん)



自分達でできる仕事を常に探しながら日々活動しています。慣れるまでは大変な作業が多かったですが、慣れてくると乳量や子牛の成長などに目を向けられるようになりました。作業後に子牛と触れ合うのが癒しの時間です。まだ率先して行動できていないので、克服していきたいです。(2年生、立川 明さん)



子どもの頃に観光牧場で牛に触れたことがきっかけで、もっと深く知りたいと思い進学しました。実際にやってみて感じるのは、牛との別れや命の誕生など、さまざまな出来事に向き合わなければならないということです。それらすべてを背負っている酪農家は本当にすごいなと思います。牛舎では、牛にストレスをかけないことを心がけています。(2年生、脇田 心さん)



牛が一番
“牛舎においては牛が一番”を念頭に置いて活動します。何をもって牛が一番とするかは、生徒それぞれに考えがあるので、それを各自体現するような作業を行ないます。結果として、牛が最高の環境で生活できるようになります。



概要
北海道大野農業高等学校 ホルスタインクラブ
部員数9名
総牛頭数16頭(うちホルスタイン経産牛7頭)
繋ぎ牛舎、独房、パイプラインミルク
活動内容：所属する学科にかかわらず、乳牛管理や共進会への参加など牛に関わりたい生徒が自主的に集まり活動している。活動内容は、給飼や搾乳など基本的な酪農作業に加え、共進会に向けた調教なども。
担当教諭：服部 良太 先生



酪農に憧れや興味を抱き、実践をとおして酪農を学ぶ学生達は今、何に興味を持ち、どのような活躍をしているのか？
未来の酪農業界を担う期待の星を紹介！

NO.14

北海道大野農業高等学校



2023年に牛舎を更新
渡島管内唯一の農業高校としてさらなる地域の農業教育発展のために牛舎を更新しました。牛舎の2階は誰でも見学できるようになっていて、酪農を広く知ってもらうための施設となっています。



先輩を見て学ぶ
誰に指示されるわけでもなく、各々が重要だと思うことや、やるべきことを見つけて自主的に行動します。先輩の作業を学びながら仕事をマスターできるようにする積極的な姿勢が生徒達に根づいています。



非農家出身の生徒の割合が多い本校で、教諭である私の役割は酪農の面白さや可能性を最大限に伝えることだと考えています。牛舎作業を通じて、自分で考えて行動することの大切さを体得してほしいです。酪農経験がなかった生徒がここで酪農に興味を持ち、それを将来に活かしてくれることを願っています。(服部 良太先生)



高校に入ってはじめて牛に触れました。牛の誕生に立ち会い毎日顔を合わせるなかで、牛の成長や変化を感じ取れることがとても興味深く、素敵なことだと思っています。ここでの経験をきっかけとして大学に進学し、さらに牛について学ぶつもりです。(3年生・部長、後藤 乙葉さん)



もともと動物を学びたいと思っていて、せっかく来た農業高校ならばと、牛の管理をしてみようと思いい入部しました。共進会に向けて調教にチャレンジしていますが、初めはとても難しかったです。しかし練習を重ねるうちに牛と通じ合うようになり、今はやりがいを感じています。(2年生、中川 凜菜さん)

学生牛部は今!